

義農「武左衛門翁及同志者碑」

鬼北町

日吉村下^{しもかぎやま}鍵山に、中心街を見下ろす小高い広場（明星ヶ丘）があり、ここに「濟世救民武左衛門翁及同志者碑」がある。

明暦3（1657）年、宇和島十萬石初代藩主伊達秀宗が、五男宗純に三萬石を分地して吉田藩が生まれた。新藩としての面目と体制を整えるために多くの経費を要したうえに、度重なる天災飢饉や幕府の公務負担などで藩の財政は極めて苦しかった。負担の全ては領民に転嫁され、また、農民の大切な収入源である和紙を藩の専売にして安く買い上げたため、領民は年々困窮の度を増していった。

上大野村の農民武左衛門はついに意を決し、「ちょんがりぶし」と呼ばれる一口浄瑠璃をうたいながら、3年の歳月をかけて村々を巡り歩き、意志強固な指導者をひそかに集め、領内83カ村から総勢1万人に及ぶ百姓一揆を起こした。寛政5（1793）年2月9日のことである。

武左衛門らが要求した年貢の引き下げや紙の自由販売など11か条からなる要求は全て裁可された。また、一揆の指導者も処刑しないことを約束させ、8日間にわたった百姓一揆は百姓の完全勝利に終わり、大喜びの群衆は村ごとに整然と帰村した。

しかし、一揆の2ヶ月後、頭取武左衛門をはじめ24名の同志は吉田藩の役人に捕らえられ、厳しい取り調べを受けた後、9名が目付所に送られた。武左衛門は2年後の寛政7（1795）年3月23日打ち首となった。37歳の春のことであった。

領民は武左衛門の死を悼み、上大野村瑞林寺に手厚く葬るとともに墓を作り^{とむら}弔った。吉田藩は武左衛門の法事を行うことを禁じたが、百姓たちは子守歌や盆踊りに巧みにおりこんで供養を続けた。現在でも武左衛門の靈魂を慰める行事が地域に受け継がれている。



濟世救民武左衛門翁及同志者碑

このような、農民の苦闘の歴史を回顧し、武左衛門やその同志の、自らを犠牲にして顧みなかった崇高な精神を讃えた顕彰碑が、町を見下ろす明星ヶ丘に建てられている。

〔参考資料〕

- 日吉村教育委員会 『ひよしの文化財』
- 日吉村誌編集委員会 『日吉村誌』
- 日吉村／外 「義農武左衛門物語」